

県南家畜衛生情報

2022
第91号
令和4年7月25日



- 主な内容
- 野鳥の高病原性鳥インフルエンザ感染状況について ……1-2
 - 豚熱・口蹄疫等に備えた埋却地候補地について ……2-3
 - 暑熱対策について ……4
 - アカバネ病ワクチンについて ……5

～令和3年度シーズン～

野鳥の高病原性鳥インフルエンザ感染状況について

中小家畜課 小家畜担当

令和3年度シーズン（令和3年11月から令和4年5月）の高病原性鳥インフルエンザの国内での流行は、例年にない長期化（最終発生：令和4年5月14日）の様相となっていました。ようやく落ち着きがみえてきたように思われます。

国内発生に影響が大きいといわれている野鳥の感染状況についてお知らせします。

《国内：(陽性) 8道県 107件》

	陽性数	
	野鳥*	その他**
岩手県	24件 (27羽)	
北海道	70	
秋田県	1	
福島県	1	
京都府	1	
鳥取県		1
宮崎県		1
鹿児島県	1	7
計	98	9

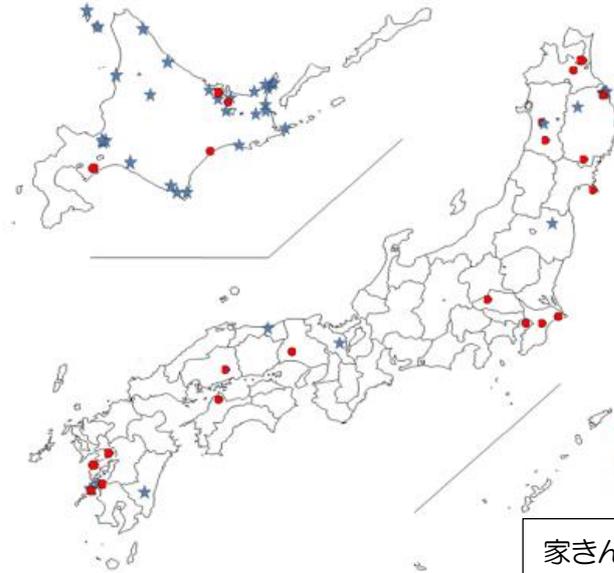
《県内：(陽性) 2市27羽》

	検査数	陽性数	鳥の種類***
県南地域	43羽	0羽	ハクチョウ、トビ、オナガガモ、コガモ、ハヤブサ、マガン、マガモ、オジロワシ
他地域	70羽	27羽	カラス(15)、ハクチョウ(8)、トビ(2)、カルガモ(1)、マガン(1)、ノスリ(1)、マガモ、ハイタカ、ハヤブサ、フクロウ
計	113	27	

* ハシブトガラス(58)、オジロワシ(17)、オオハクチョウ(8)、その他(15)

** 環境試料(8)、野鳥糞便(1)

*** 下線は陽性となった鳥の種類、()内は陽性羽数



MAFF
農林水産省

家きん
野鳥

家きん	12 道県	25 事例
野鳥	8 道県	107 件

暑熱事故も心配される季節となっています。

死亡の要因にかかわらず、一定羽数以上の死亡が発生した場合は、以下の情報を整理のうえ、当所まで報告をお願いします。

- ① 飼養羽数、死亡羽数、発生棟数
- ② 死亡鶏の状況（症状、死亡している場所など）
- ③ 事故や飼養管理が要因の場合はその根拠（舎内温度など）

～豚熱・口蹄疫等の発生に備えて～

埋却地候補地について今一度確認をお願いします

中小家畜課 中家畜担当

豚熱等の家畜伝染病の発生に備えた埋却地候補地は、家畜の所有者が自ら確保することが原則です（家畜伝染病予防法第21条）。特定家畜伝染病防疫指針では、殺処分した家畜の埋却を72時間以内に完了するよう求めています。

防疫措置を迅速に進めることは、周辺への伝染病のまん延防止や、発生農場の早期再開へもつながりますので、万全の準備をお願いします。



令和3年度埋却訓練の様子

【埋却候補地の選定ポイント】

① 十分な面積が確保できているか

3か月齢以上の豚 1頭あたり 0.9㎡が目安ですが、死体だけでなく、飼料や排せつ物（完熟たい肥を除く）も埋却の対象です。また、埋却場所の他に、作業を行う重機の動線等の作業場所の確保が必要です。

② 十分な深さを掘削できるか

埋却溝は、深さ4mまで掘削します（死体等に2m、覆土に2m必要です）。湧水や地質は、掘削しないと分からないため、事前に試掘ができればベストです。

③ 埋却作業を妨げるもの・条件がないか

障害となる大きな木や構造物（小屋、水道管）はないですか？道路からの重機の進入路は確保できますか？可能なものは、事前に除去をお願いします。

また、傾斜地の場合、埋却できる面積が限られるので面積に余裕が必要です。地質が砂利質の場合も、面積の余裕が必要です。

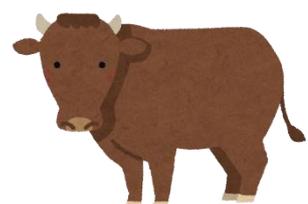
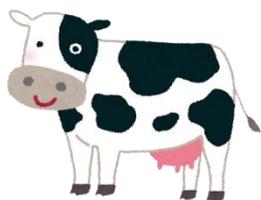
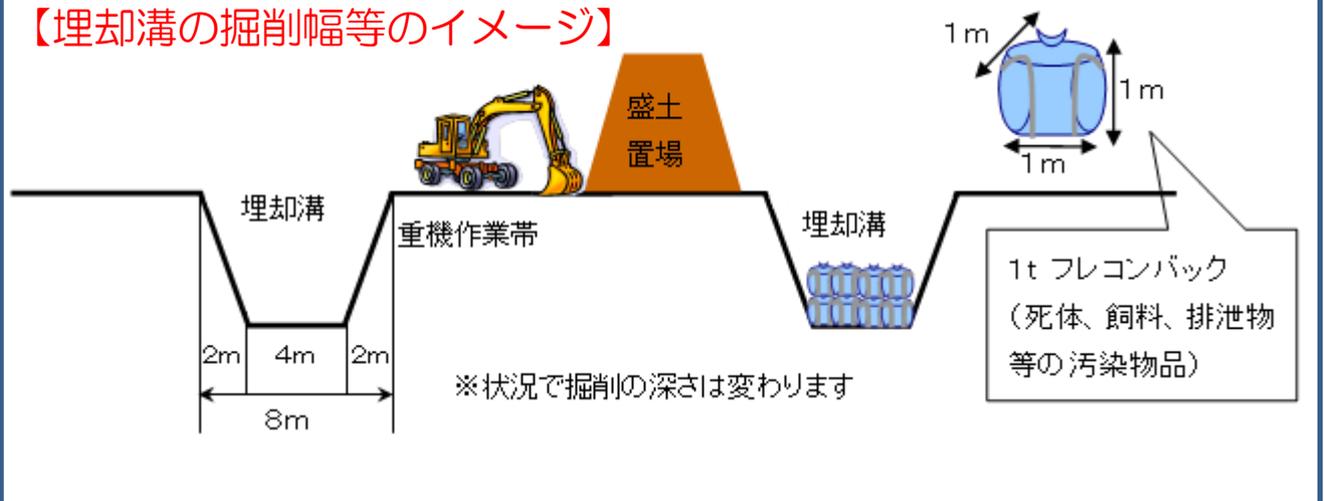
④ 周辺の土地への影響を考慮しているか

人家、水源、河川及び道路に近接しない場所である必要があります。埋却後の影響（水源への影響、臭気等）を想定し、周辺に住む方の理解が得られる説明が必要です。

⑤ その他

農場から遠すぎないですか？3年間立入禁止となっても大丈夫ですか？

【埋却溝の掘削幅等のイメージ】



家畜の暑さ対策をしましょう！

大家畜課 衛生担当

今年は各地で例年より早く梅雨が明け、早くも暑さの厳しい時期になってきました。気象庁の3か月予報でも、夏季は高い気温になるとの見通しです。暑熱は、家畜の生産性だけでなく、繁殖性にも大きな影響を与えます。健康で過ごせるような環境作りをして、今後のさらなる暑さに備えましょう。

～各畜種での事例を紹介します～

牛舎環境、飼養管理における対策（新潟県・酪農）

- 十分な飲水の確保：給水管を太くした
- 牛舎温度の低下：井戸水を利用したスプリンクラー設置、トンネル換気
- 採食量の維持：自動給餌機による少量頻回給与（配合飼料を1日6回に分けた）



夏期の乳量向上
分娩間隔短縮

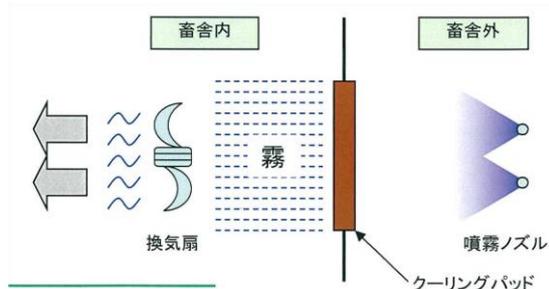


豚舎へのクーリング・パッドの設置（愛知県・養豚）

- 畜舎外に噴霧ノズルがついており、畜舎内の換気扇で空気を吸引することにより霧が流入する仕組み。



作動時の豚舎内温度が4℃低下



雑草を利用した鶏舎のひさし（群馬県・採卵）

- 「アカザ」は畑などに自生している雑草で、成長が早く夏期には鶏舎屋根まで届きます。これを鶏舎の東側と南側に移植することで、鶏舎内に日陰を作りました。
- 夏を過ぎれば枯れるので、後処理も容易、低コスト。
※鶏舎内の風通し確保のため、下部の枝や葉を切る手入れはが必要です。

夏期の死亡羽数が激減

700羽→40羽



アカバネ病ワクチンを接種しましたか？

大家畜課防疫担当

1 アカバネ病とは？

アカバネ病ウイルスによる伝染性の異常産です。吸血昆虫（ヌカカ）が本ウイルスを媒介し、主に西日本や東南アジアに常在していると考えられています。台風等の気象現象により感染したヌカカが本県に侵入して牛に感染させ、県内に生息する土着のヌカカが牛から牛へ媒介すると考えられています。

本ウイルスがワクチン未接種の母牛に感染した場合、胎子に感染が成立する可能性が極めて高いです。その場合、その胎子に多大な影響が生じます。

胎子は胎齢に応じて様々な異常がみられ、季節が進むごとに変化が見られます。

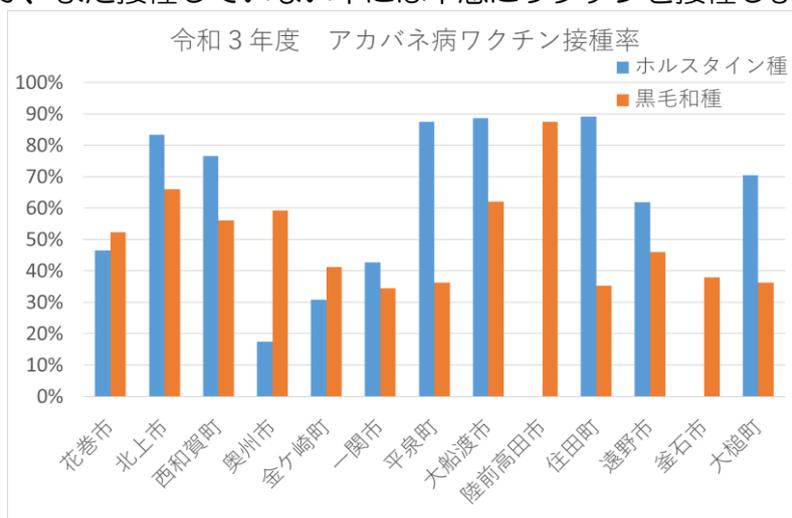


～ 胎子の異常の例：7月にウイルスが流行と想定 ～

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
流産・死産									
脳炎									
			関節湾曲						
					水頭無脳症				

2 アカバネ病ワクチン接種率（当所及び県南家畜衛生推進協議会調べ）

昨年度のアカバネ病ワクチンの接種状況は下のグラフのとおりで、品種により接種率が極端に低い市町が見受けられます。平成22年の本病の流行では、県内で105戸119頭の発生が確認されました。今年度については既に流行期を迎えてしまいましたが、まだ接種していない牛には早急にワクチンを接種しましょう。



〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東館 41-1

岩手県県南家畜保健衛生所

Tel 0197-23-3531

Fax 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会

Tel 0197-24-5532

Fax 0197-23-6988